

<今日の説教のポイント ルカによる福音書1章5～25節 >

1 クリスマス 十字架にかかって死んで下さったお方の誕生。

クリスマスは普通イエス様の誕生から考え始めますが、ルカ福音書を読み終えたところの私たちは、私たちの罪の贖いのために十字架に架かって死んで下さったお方の誕生としてクリスマスの出来事を見て行きたいと思います。それは、このクリスマスの出来事の中にある、私たちが愛して止まない神様の恵みを聞き取ることを意味します。

2 (5-10) なぜ主イエスでなく、ヨハネの誕生の話から始まるの？

まず最初に、イエス様ではないヨハネの誕生の出来事が記されていることに首を傾げます。これも後に彼がしたことを知って初めて分かる話なのです。ルカはまず彼の父母について記します。ここで大事なことは、この二人が信仰深い「神の前に正しい人」(6)であったこと、同時に、彼らに子どもは無く、二人とも歳をとっていたことです。神様は、イエス様を指し示す重要な人物となる洗礼者ヨハネの親をこの二人とされたのです。当時は、子が与えられないことは神様の幸を受けていないと考えられていましたが、二人はそれでも「神の前に正しい人」であり続けていたのです。私たちもどんな時にも神様の方を向いて生きればいいのかという神様の恵みを教えられる話です。

3 (11-17) ヨハネの誕生にも神様の私たちへの恵みが詰まっている！

神様のなさることは私たちの思いを超えています。生まれたヨハネを見ていてもそこに何の意味があるのか分かりませんが、後のヨハネが果たした役割を知ると、全ての人に用意して下さった神様の大きな恵み分かるのです。彼は洗礼者ヨハネとなり、人々に神様が与えて下さった救い主イエス・キリストを指し示し、このお方を見つめるように勧めたのです。神様が私たちに示されたお方が分かったのですから、後はそのお方が教えられること、なされる業を見つめて行けば、神様が必ず理解できるように導いて下さるという神様の恵みです。

4 (18-25) 疑うことはあっても、信頼し直して歩むことが大事。

神の前に正しい人ザカリアにも、神様を信じられない時があったのです。しかし、彼は神様を疑い続けるのではなく、信頼し直して歩み続けることにしました。すると神様に心から感謝できる時が訪れたのです。この出来事の中にある神様の恵みを覚えたいと思います。